

突撃！リスクマネージャー！！

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー！

No4. 東邦大学医療センター佐倉病院 医療安全管理室 GRM 小林 美智子様

■病院概要

千葉県佐倉市の要請を受けて平成3年にオープンした総合病院(451床)。
15科と4センターを擁し、地域の中核病院として高度医療を実践するとともに、医学部・看護学
科・薬学部等の教育機関としての使命を果たしている。



厚生労働省が医療安全管理を指導する前から病院独自の医療安全活動を実践してきた
東邦大学医療センター佐倉病院様。
院長直轄で運営されている医療安全管理室で副室長を務め、
GRM(ゼネラルリスクマネージャー)として、院内での医療安全活動を進められている、
小林様にお話をうかがってきました。



1. 転倒・転落対策で重要なことは何だと考えられていますか？

当院でのインシデント TOP3 は他の病院と同じく 1.与薬関連、2.チューブ関連、3.転倒・転落事故です。
転倒・転落事故の原因として患者様の高齢化や認知症患者の増加、また、ナースコール指導をしても遠慮してナースコールを
押していただけないなどが挙げられます。
“転倒・転落をさせないようにする”というのはとても重要な事です、当院では“仮に転倒しても患者様が大事に至らないようにす
る事”を心がけています。患者様の入院時に アセスメントスコアシートをつけることや、ご家族や患者様ご本人に転倒の危険性につ
いて説明するのはもちろんですが、入院生活は自宅生活とは異なるため療養環境を整備することが重要です。ベッドは低めのもの
を使用し、ベッド周りに余分なものを置かない、危険な患者様にはベッド下に緩衝マットを敷くなどしています。
対策として離床センサーも用いており、起き上がりを知らせるベッドコールなどで患者様の離床を報知するようにしています。

2. 安全管理を電子化されたとのことですが、現場でどのように役立てていらっしゃいますか？

当院では2年前に、「電子インシデントレポート報告システム」を導入しました。
インシデントが発生した時には、病棟ごとに12~15台ある電子カルテ用パソコンに入力することにより報告ができるようになってい
ます。
従来は紙ベースで提出されていたので、文字が読みにくかったり、現場担当者から医療安全管理室に報告書が届くまでに時間が
かかり、インシデントが起こってから検証までにタイムラグがあるなどの問題がありました。しかし、「電子インシデントレポート報告
システム」によりリアルタイムで現場責任者や担当医師、医療安全管理室メンバーが状況確認を行えるようになったため、情報収
集がスムーズになり迅速に対応できるようになりました。
また、操作方法も簡単のため「記入する手間」が省け、特にインシデントのケースが増えたわけではないのに報告の件数は増えま
した。特に医師からの報告が増えており、チーム全体でインシデントを把握することにより、院内の連携強化や医療安全の意識強
化に役立っています。また、このような報告活動が、職員の安全を守ることにもつながると考えています。

3. 早い段階から医療安全活動を実践されてきましたが、どのような活動をされているのですか？

当院では 10 年前から月に 1 度、全職員を対象とした安全管理研修会を行っており、今年 7 月で 100 回目を迎えました。研修会には出席可能な職員が参加しますが、年に 3 回以上の参加を促し、毎回参加する職員もいます。新人が入った 4 月には約 300 人の職員が参加してくれました。（東邦大医療センター佐倉病院様の職員数は約 800 名）

安全管理研修会では、月 1 度行われる医局と各部署のリスクマネージャーによる医局・部署安全管理検討会で検討した内容の発表や討議、医療安全に関して周知してほしい事などを取り上げています。研修会を行うことで安全意識の向上を図ることはもちろんですが、時には討議した内容を病院へ要望として提言することもあります。

また、発表内容は院内ホームページにより閲覧可能なので、参加できなかった職員はいつでも資料を確認できるようになっています。

現在、安全管理に関わっている職員は 135 名おり、それぞれ専用のワッペンをつけています。これにより、誰が見ても一目で安全管理に関係するメンバーだと分かりますし、安全管理者自身もワッペンを付けることにより責任者としての自覚を持ってもらうようになっています。

【参考】



4. 医療安全管理者として、小林様が大事にされていることは何ですか？

合言葉は、『ウルTRASーパー・ポジティブシンキング』です。

職員がマイナス思考で仕事をしていると患者様にもそれが伝わってしまい、安全管理上よい環境とは言えません。話をする時も、プラスのストロークで返すように心がけ、患者様にも職員にも気持ちを前向きにしてもらえるように働きかけています。

どうせ仕事をするのであれば、ニコニコ楽しく仕事をしたいですね。元気だと、コミュニケーションも円滑に行え会話も増え、会話の中で自然と確認作業を行うようになり、医療事故防止にもつながります。

当院のモットーは、『笑顔と挨拶』なんですよ。